

解釈改憲 自民唯一NO

村上元行革相に激励続々

集团的自衛権の行使容認をめぐる国会の集中審議が始まる中、自民党内で唯一、明確に反対の声を上げ続ける村上誠一郎衆院議員(会)は、元行政改革担当相、愛媛2区がじわりと支持を広げている。全国から激励のメールやファクスが寄せられ、インターネット上でも村上氏を応援する声があふれる。党内では孤立している村上氏だが、党外の視線は熱い。(清水俊介)

「自民党にも私たちの代弁者がいると知り、うれしかった」

「自民党は支持し、自衛権の行使容認に反対を

「自民党にも私たちの代弁者がいると知り、うれしかった」

「自民党は支持し、自衛権の行使容認に反対を

「自民党にも私たちの代弁者がいると知り、うれしかった」

「自民党は支持し、自衛権の行使容認に反対を

「自民党にも私たちの代弁者がいると知り、うれしかった」

「自民党は支持し、自衛権の行使容認に反対を

「自民党にも私たちの代弁者がいると知り、うれしかった」

「自民党は支持し、自衛権の行使容認に反対を

「こじつけ議論通用しない」

本紙インタビュー



むらかみ・せい・ちろう 1952年、愛媛県生まれ。東大卒。86年に衆院議員に初当選し、当選9回。行政改革担当相などを歴任。

集团的自衛権の行使を認める閣議決定を行った安倍政権の解釈改憲に、自民党内から明確に反対している村上誠一郎衆院議員。本紙のインタビューに「こじつけの議論で法治国家とはいえない。国民をなめると大変」と危機感を吐露した。

「解釈改憲が閣議決定された。この間の党内をどう見るか。」

「思考停止。最初から憲法九条の空文化ありき。集团的自衛権を行使するために、全部こじつけでやっていった。一般の国民には通用しない論理だ。内閣が代わるたびにこんなことをやって法律を変えていたら、法治国家じゃない。」

「憲法の平和主義がこの手法で崩されれば、国民主権や基本的人権の尊重も崩れる。その危機感が、自民党内にはヒンときていないようだ」

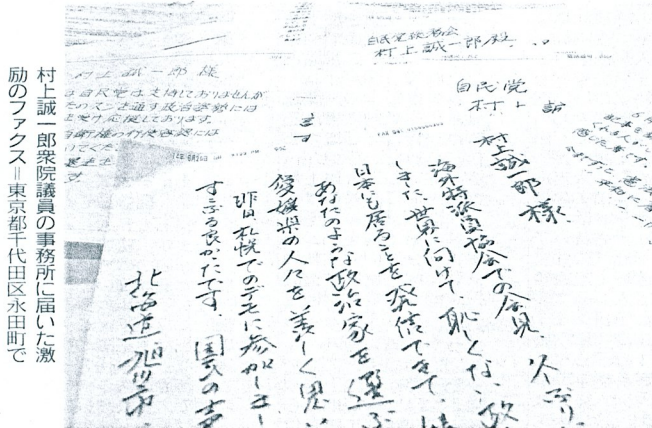
「一方で、全国的に応援の声が広がっている。『国民の多くは私と同じ考え方が多い。』」

「世論は解釈改憲に反対の

「安全保障環境の変化だの、中国脅威論だの、日本が米国に見捨てられるのだ、安倍政権は情緒的な理由を言っているだけ。そんなことを言っても国民はついてこない」

「激励のメール、ファクスを見てどう思うか。」

「恐ろしさを感じる。こんな反響は議員になつて初めて。淡々と自分の主張、正論を言っているだけなのに、こういう反応が返ってくるという事は、逆に言えば、国民が反自民で動いているということだ。今回よく分かったのは、諦めずに言い続けることの大切さ。お寺にある大きな釣鐘は指で一回押しても動かない。でも、一回、二回、三回と押していると、大きな釣鐘が動きます。そんな感じがする」



村上誠一郎衆院議員の事務所に着いた激励のファクス。東京都千代田区永田町で

北海道旭川市の女性はフ